

# 一球通信 vol.1 28

\*\*\*\*\*コンテンツ\*\*\*\*\*

1. OB 便り (昭和 43 年遠山様より)
2. OG 便り (平成 29 年卒宮本様より)
3. 故 池田様を偲んで (OB 会長今井様より)

\*\*\*\*\*

## 1. OB 便り (昭和 43 年遠山様より)

---

渡辺マネージャーから懇切丁寧な執筆依頼がありましたので駄文を覚悟で重い腰を上げることにしました。

小生は昭和 39 年 1 浪で入学し何の迷いもなく野球部に入部しました、家が貧しかったので大学は国立しか行けないと思い高校時代は好きな野球をあきらめ勉学にいそしんで(?)いたのですが結果的に浪人生活を味わい野球をやらなかった事を悔いたものでした。

従って硬球を握ったのは大学で初めてだったのですが幸いにして 1 年の秋からレギュラーとして使ってもらいました、竹村先輩と三遊間を守ったことは懐かしい思い出でいっぱいです。当時監督は存在せず最上級生が仕切っていました。4 年生は故並木キャプテン以下 4 人しかおらずあまり目立っておりませんでした、その代わり 3 年生に長谷川キャプテン以下麻生、竹村、上村、西崎、植月、関島、田中、藤森、故伊丹先輩など猛者がそろっていました、小生の野球部生活はこの 3 年生抜きには考えられません。

入部間もなく練習後に国立駅前にあった”ふるさと”というレストランで生ビールをごちそうしてもらい、ものすごく感激したことを今でも忘れられません。又三商大戦で神戸遠征に行ったことも良い思い出です。今では考えられませんが当時は新幹線ができたばかりで

多分高額だったのだらうと思われませんがしっかり者の磯部マネージャーに引率されて 7~8 時間かけて在来線で行ったのです。生まれて初めて大阪なる地へ行き、晩には我等 1 年生は伊丹、竹村両先輩の実家に分宿もさせていただきました。

肝心の野球の話ですが同期の草野が書いたように 38 年秋に東海大他が抜けた為に 4 部は 3 校になってしまいました、また新しく立正大と大正大が加盟し次々と上に昇格しましたので結局一橋、武蔵工大（首都大学）、東工大が 4 部の常連となってしまいました、それでも 4 部では殆ど優勝し神宮球場での入れ替え戦の常連でした、それは今も同じであると思います、新入部員を勧誘する際に大いにアピールしたら良いと思います。（何しろ神宮球場を使えるのは 1 部のみなのですから・・・）

それ以来東都リーグは 21 校体制で今日に至っております。以前に鐘ヶ江会長に 1 部 7 校体制にしてもらったかどうか？と提案し会長も連盟に提言し検討もされたようですが実現には至っておりません。現在は監督もおり広商の OB の方々の応援もいただき確かに強くはなっていると思いますが“勝つ”という執念が不足しているようにも思われます。

今後一層の練習を重ねて 3 部に残留し続け、いずれは 3 部で優勝する事を願っております、生きていく限り応援しますので頑張ってください。

昭和 43 年卒 遠山昌之

## 2. OG 便り(平成 29 年卒宮本様より)

---

OB・OG の皆様

お世話になっております。平成 29 年卒の宮本祐花と申します。

先月号の一球通信に寄稿した同期マネージャーの橋野に続き、OB 便りの執筆依頼をいただいたことを嬉しく思います。

さて、今月は今年度チームの集大成とも言える秋季入替戦 vs 芝浦工業大が行われましたね。直接神宮まで観に行くことは叶いませんでしたが、仕事の合間に東都の試合速報を逐一確認しておりました。

結果は二連勝と非常に嬉しく、会社のデスクで隣に座っている一橋体育会の先輩に三部残留の報告をしてしまったほどでした。

現役部員の皆様、本当におめでとうございます。

11月。この季節になると、真っ青に澄んだ神宮の空と、鋭く張りつめたロッカールームの独特の空気感を思い出します。

私の代は一年生の秋から毎年秋季入替戦に出場した代でした。(改めて数えてみたら、四年間で21試合も神宮球場でやらせていただいております。)

良くも悪くも11月の入替戦は毎年恒例の風物詩と化していたので、五年ぶりにその存在が無くなると物悲しさを覚えます。

そのような四年間の野球部生活には、緊張感漂うリーグ戦から日常の部室での些細な出来事まで、思い返せばキリがないほどたくさんの思い出があります。

先月号で同期の橋野が自身の引退試合について記載しておりましたため、

私のなかで強く印象に残っている試合につきましては、二年生の秋季入替戦 vs 上智大を挙げさせていただきます。

平成27年卒の山田さん率いるチームにて二年生ながらスコアラーとしてベンチに入れてもらい、初めて昇格を経験した試合でした。

試合でプレーできないマネージャーとして活動するなかで、自身がどれだけチームの勝利に貢献できるのかという成果は見えずらく、モチベーションを維持することが難しい時期もありました。

しかしこの入替戦で味わった緊張感と高揚感。

当時ショートを守っていた平成28年卒の文字さんが二死満塁のなかランナーをタッチアウトし、三部昇格が初めて決まった時。

ベンチで部員と喜びを分かち合った瞬間が、その後の野球部生活でモチベーションが揺らいだ時、自身が野球部で活動する原点に立ち返らせてくれるものとなりました。

「チームで勝ちたい、もっと上を目指したい。」

そのような思いで活動するなかで、在籍した四年間でマネージャーの仕事内容も大きく変わりました。

マネージャーのなかでも担当業務を細分化しましたが、正直手探りな部分も多く、世話人会の方々や監督、部員には終始ご迷惑をおかけいたしました。

特に最上級生、マネージャー長になってからはチームの在りかたについて悩んだことや葛藤したことも多々あり、自分自身の軸が分からなくなることもありました。

それでも四年生の引退まで活動を続けることができたのは、

あの忘れられない昇格の瞬間が、自身が野球部で活動する原点に立ち返らせてくれたからだと思います。(以下画像参照)



この野球部だからこそ過ごせた貴重な時間、出会えた方々は今後の人生の礎になるのだと感じております。

野球部で活動をするなかで支えてくださった方々には、引退して時間が流れるほどに感謝の気持ちが募ります。

また来年度の新チームは昨日 11/24(金)から発足したとお聞きしました。

今後も一層の練習を重ねて三部に残留し、いずれは三部で優勝を飾ってほしいと心から願っております。

今後は OG として微力ながらも一橋硬式野球部の発展に貢献できればと思います。

平成 29 年卒 宮本祐花

### 3.故池田様を偲んで(昭和 48 年卒今井より)

先月 25 日、昭和 46 年卒池田茂樹様をご逝去されました。

謹んでお悔やみ申し上げますとともに、故人のご冥福をお祈り申し上げます。

この度、池田様の現役時代とともにプレーなさった今井様に思い出を綴っていただきました。

---

#### 故池田先輩（昭 46 卒）を偲んで

今井鉄郎（昭 48 卒）

去る 10 月 25 日（水）に我が年代の偉大なエース投手であった池田茂樹先輩が永眠されました。ここに謹んで哀悼の意を表するとともに故人を偲んでエピソードをいくつかご紹介したいと思います。

池田さんは昭 42 年に愛媛の名門愛光学園から一橋大学に入学されました。

高校時代は特に硬式野球をやっておられた訳ではなかったのですが、持ち前の運動センスの良さと豊富な練習量でメキメキと実力をつけ二年生の頃には既にエース投手として活躍されるようになりました。

その 1 年後の昭 44 年に私が入学。高校では軟式野球をやっており、どこか運動部に入ろうとは思っていたものの一橋の硬式野球部は弱いというイメージがあったので敬遠していました。ある日何気なく国立のグラウンドに足を運んだところ、たまたま試合の最中で一橋大の投手の外角に鋭く落ちるスライダーを見て意外にレベルが高いんだなあと感心しました。それが池田さんとの初めての出会いでした。

池田さん達の年代は個性豊かで敢えて失礼な言い方をすれば我儘な先輩が多く池田さんもその代表的な方でした。一方でとてもリベラルな雰囲気ですべての選手が体育会運動部にありがちな先輩からの強制・強要といったような事は一切ありませんでした。監督もコーチもいなく試合中のサインは主将か主務が出す、試合が終わった後その采配について下級生の我々も加わって反省会を開く。選手それぞれが自分の頭で考え自分の体で答えを出す。このような野球部に私自身もどんどん魅せられて行きました。

特に池田さんは練習方法も創意工夫を凝らしユニークな練習をされていました。ピンポン玉を使ってのバッティング練習、これは動態視力のトレーニングに有効との事。また下半身強化の為、鉛を入れた靴を履いて外野をダッシュとクールダウンを何度も何度も繰り返す。練習時間の半分以上は走っていましたね。走っている時もそして試合中のマウンド上でもそうだったのですが、池田さんは苦しくなると金魚みたいに上を向いて口をパクパク開く癖がありましたね。あれは一体何だったのだろう、いつか聞いてみようと思っているう

ちにお亡くなりになってしまいました。本当に残念です。

そして長い練習が終わると真っ赤なクーペに乗ってさっそうと雀荘に先回りし牌を並べて我々の到着を待つ。なんか恰好良かったです。池田さん。

池田さんが4年生の時に2年生に私と同期の剛腕木村投手（前監督）、1年生に甲陽学院出身の技能派寛投手がいて、当時の一橋では最強のチームと言われました。広商との交流もその頃から本格化し、夏の三商大戦の前に広商の畠山先生からお誘いがあり初めて広島合宿を行いました。その甲斐もあって川鉄今津球場で行われた三商大戦では戦後初めての優勝という快挙を成し遂げました。

そして迎えた秋のシーズン。3部で優勝の常連だった拓大の綱島監督をして“今シーズンで最も警戒するチームは池田投手のいる一橋大と言わしめた程でした。実際、拓大戦では1回戦こそ3対0で敗戦したものの2回戦では5対1で快勝。翌日拓大の選手は頭を5厘刈にして球場の入口に一列に並んでいました。我々はもしかしたら何か仕返しをされるのではないかと内心怯えながら球場入りしたものでしたが、これは単に一橋大に敬意を表するつもりだったと後でわかりました。それならもっと早く言って欲しかったと今でも思います。そして迎えた3回戦は当然エースの池田投手が先発、両軍とも点が取れず文字通り手に汗握る緊迫したゲームとなりました。終盤に入り拓大の4番打者のやや詰まった低いフライがライン際に切れて行きライトの寛君が必死に飛びついたが間に合わず、結果的に3塁まで進塁を許してしまいました。それでも池田投手は踏ん張り、続く打者を内野ゴロにしとめたものの内野手の本塁送球がワンバウンドとなり3塁ランナーが生還。これが決勝点となり1対0で惜敗。このシーズンは成蹊、拓大、一橋の上位三チームが勝点4で並び勝率の差で成蹊が9勝3敗で優勝、拓大が8勝3敗で2位、一橋は9勝5敗で3位となりました。勝負の世界で“if”は禁物ですが、あの時拓大に勝っていれば勝点5の完全優勝が実現したのです。

実はこのような快進撃には裏話があります。池田さんの肩は長年の酷使が祟って上にあげられない程ボロボロになっていたのです。春のシーズンで期待に反し最下位の6位に甘んじてしまったのも池田さんの不調が原因でした。しかしそこでへこたれず何とか創意工夫をこらすのが池田さんの真骨頂でした。今まで本格的な上手投げ投手であった池田さんが春のシーズン終了後何と下手投げに変身したのでした。このような事は常識では考えられない事なのですが、筋肉が柔らかく運動センス抜群の池田さんならではのユニークな試みでした。春のシーズンでの屈辱にへこたれずむしろそれをバネにして切磋琢磨し秋のシーズンではあともう一步で優勝というところまで持って行った池田さんの姿勢は今でも現役選手の鑑になると思います。

去る11月7日（火）の入替戦2回戦目の前野投手は連投の疲れから7回頃から球威がガクッと落ちて何時打たれてもおかしくない状態だったと思います。しかしそこで頑張れたのは秋のシーズンで思うような投球が出来なかった悔しさがバネになったのではないかと思

います。4年生の秋は選手の皆が大なり小なりこのような想いを込めながら戦っているのだと改めて感じました。

4年生の選手諸君そして今村マネージャー、本当にご苦労様でした。

そして天国にいる池田さん。いつまでも野球部の事を応援して下さい。

\*\*\*\*\*

最後までお読みいただきして有難うございます。

今後とも野球部への温かいご指導・鞭撻ほどよろしく願いいたします。

一橋大学硬式野球部

2年マネージャー渡辺佳奈

一橋大学硬式野球部公式ホームページはこちら↓

<http://jfn.josuikai.net/circles/sports/hit-u-bbc/>

OB・OG様専用ページパスワード：hitbbc-obog

↓ご意見・ご要望・配信停止等のご連絡等はこちらまで↓

[hit.u.bbc.mg@gmail.com](mailto:hit.u.bbc.mg@gmail.com)